

令和6年度 第4回学長選考・監察会議議事録

I. 日 時 令和7年1月16日（木）16時15分～17時10分

II. 場 所 学術総合センター 一橋記念講堂会議室101～103（1階）

III. 出席者 西堀（議長）、河田、黒木、塩尻、島田、銭谷、
伊藤、内山、大鳥、諏訪、松浦、三木、和田各委員

欠席者

大井、山本各監事、丸山事務局長

（欠席者：宮坂委員）

※下線はオンライン出席者

IV. 前回議事録について

前回の議事録（案）について、原案のとおり承認された。

V. 議 事

1. 学長選考に関する論点等について

西堀議長から、「学長選考・監察会議の学外委員の選考方針等に関する検討依頼について」、次の（1）選出方法について及び（2）学外委員の再任上限について提案があった後、意見交換が行われた。審議の結果、本日出た意見を踏まえて事務局案を作成し、各委員へ意見照会を行い、意見を反映したものを最終案としてまとめ、議長から執行部へ手交することとなった。

（1）選出方法について

【議長提案】学外委員の大学からの独立性を担保するため、学長が、経営協議会の学外委員から学長選考・監察会議の学外委員を提案する仕組みを改め、経営協議会の学外委員だけで学長選考・監察会議の学外委員候補者を推薦し、経営協議会で選出することの検討を依頼する。

意見交換において出された主な意見は次のとおり。

- ・選出方法として、投票を取入れるように依頼しないのか。
- ・学外委員はお互いを良く知らないこともあり、投票は馴染まないのではないか。
- ・他大学では、経営協議会の学外委員全員が学長選考・監察会議の委員を務めている所もある。ジェンダーバランス等を配慮するため、人数を増やしてはどうか。
- ・人数が多いと議論がまとまりにくいこともあり、現状の14名体制になっているものとする。ジェンダーバランス等の配慮は、検討依頼の案文に入っている。
- ・学外委員を選出した詳しい理由も公表すべきである。
- ・教育研究評議会から選出される学長選考・監察会議委員の選出方法については、要望に入れないのか。
- ・本会議構成員の半分は学外委員であるので、教育研究評議会から選出される学長選考・監察会議委員の選出方法を扱うのは適切ではないと思う。

(2) 学外委員の再任上限について

【議長提案】学外委員は大学からの独立性が求められるが、再任が繰り返され在任期間が長期化する場合には、学外委員に期待される独立性が徐々に失われると考えるのが自然。従って会議が適正に運営されているか否かに拘わらず、学外委員の通算在任期間には一定の歯止めが必要だと考える。但し、学長選考・監察会議の学外委員には長期在籍者が多いことから、会議の継続性にも配慮し、ある程度時間をかけて望ましい方向に転換していくべきである。

意見交換において出された主な意見は次のとおり。

- ・再任は何回までと明記するのは難しいのではないか。
- ・明記するのは難しいと思うが、ガバナンスの観点もあり「一定の歯止め」は必要である。会議の流動性と継続性両方に配慮したいということである。

2. 「求められる学長像」及び業績評価について

事務局から、他大学における学長等の業績評価実施方法等の調査結果について報告があった後、意見交換が行われた。次回以降も継続して、学長の業績評価実施方法について検討することとなった。

上記の審議過程において出された主な意見は次のとおり。

- ・学長が何を考えてどういう大学を作っていくのか、どのように問題を解決するかなど学長の情熱が分かる資料も欲しい。
- ・評価項目の点数も参考に最終的な総合評価を出すべきである。
- ・評価期間の大半が過ぎている現時点で、今期の評価方法を大きく変えることは難しい。むしろ現学長の在任が1年目であることを考えれば、評価より、要望事項があれば、これを伝えることが大事ではないか。

以上